

報告

高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) 全国フォーラム 2004 報告

Astro-HS 運営委員会事務局

有本淳一 (京都市立塔南高等学校)

直井雅文 (埼玉県立越谷北高等学校)

高橋 淳 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

概要

2004年3月21日に名古屋において高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) 全国フォーラム 2004 が開催された。この全国フォーラムはこれで3回目となるもので、北は北海道・函館、南は鹿児島・沖永良部から高校生が参加し、行われた。総講演数は25本で、参加者は指導者や教育関係者などを含めると総勢で約130名となり、会場に入りきれないような状況であった。今回はジュニアセッションとの連携と住み分けを行い、このフォーラムでは高校生やその指導者が参考になるような講演や観測テーマについて議論がなされた。そして、ジュニアセッションでは高校生の研究発表を行うということになった。当初は参加者が少ないのではないかと心配される部分もあったが、ふたを開けてみると予想以上の盛況で、関心の高さを感じることとなった (図1、2)。

今年度の観測テーマは二大彗星、金星の太陽面通過、ペルセウス座流星群であるが、多数の参加が期待できるのではないかと考える。そして、その結果などをもとに次年度の全国フォーラムを、2005年の天文学会春季年会にあわせて東京で開催する予定である。

以下、今年度フォーラムの詳細をセッションごとに報告する。

1. Astro-HS の事務局報告 (座長：縣、直井)

2003年度度取り組んだテーマは、「水星の日面通過」・「ペルセウス座流星群」・「火星大接近」であった。この総括と2004年度の活動予定について報告がなされた。また、複数のグループで取り組んだ北海道函館合同観測会2003の報告、Astro-HSのWebページの役割と今後についての報告がそれぞれなされた。(直井)



図1 参加者のようす



図2 発表のようす

2. 一般発表（前半座長：原、五島、後半座長：田邊、篠原）

流星電波観測から今まで Astro-HS で取り組んだことのないような大気現象まで多種多様な発表が行われた。特に流星電波観測については高校在学中にこの Astro-HS に参加し、そして、巣立っていった内海洋輔さん、小川宏さんの発表が印象的で、現役の高校生にも刺激になったのではないかなと思う。さらに渡部潤一さんからは NASA の進める Deep Impact 計画についての話もあり、その観測を 2005 年には行おうではないかという話も飛び出してきた。全体として各スピーカーが高校生にわかりやすくということ念頭においていただいた結果、非常に充実した内容となり、高校生にも参考になることが多々あったものと思う。（有本）

3. Astro-HS の観測報告（座長：高橋、小田桐）

2003 年度最大のイベントであった火星観測について 2 件の報告があった。安達誠（月惑星研究会）さんからは、高校生達によるスケッチ観測から、黄雲（砂嵐）発生の様子がわかったことが発表された。また、縣秀彦（国立天文台）さんからは、Astro-HS はじめ複数の天文教育団体からのリクエストに応じて、すばる望遠鏡が火星を観測しそのデータを例にないスピードでリリースしたこと、高校生がそのデータをもとに研究し成果をジュニアセッション等で発表したことなどが報告された。

また、2004 年度の観測テーマについての説明があった。相馬充（国立天文台）さんからは金星太陽面通過の観測について、鈴木文二（三郷工業技術高校）さんから彗星観測についての提案があった。（高橋）

4. 交流会（司会：有本）

高校生の交流はジュニアセッションでも行えるのであるが、今回もこのフォーラムは同じホテルに宿泊することとなっていた。したがって、ジュニアセッションとはちがった交流が図れるものとの意図から交流会を行った（図 3）。たいした時間をここに割くことができなかつたため、自己紹介程度の内容になってしまったが、その後、各自で自由に交流を図ってもらえたものと思う。

内容的には各学校が持ち時間 1 分間で、自分の学校・クラブの活動や特徴を話すというものであった。雨の日はどんな活動しているとか、合宿での楽しみ方などフランクな意見が多く飛び出し、和やかな雰囲気が進めることができた。（有本）

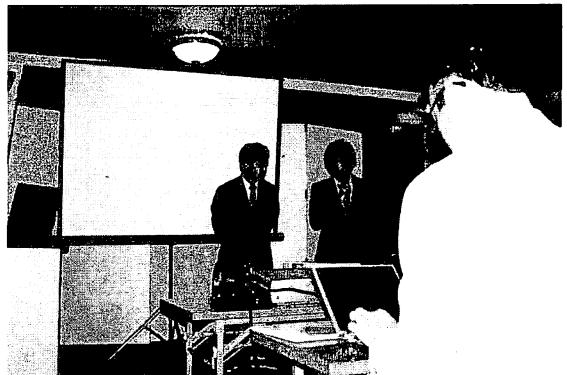


図 3 交流会のようす